

# 第1位 横浜の魅力とは

住みたい街

住み続けたい街

首都圏1都4県を対象としたSUUMO「住みたい街ランキング2024首都圏版」で  
7年連続1位、SUUMO「住み続けたい街ランキング2024」でも1位を獲得し、2冠に輝いた横浜。

街のさまざまな魅力に愛着を持つ市民から支持され、その思いが街を活性化させ、  
市外からの支持を生む好循環が生まれています。  
ここでは横浜市のさまざまな街の魅力を紹介します。



横浜が

## 「住みたい街ランキング2024首都圏版」1位に選ばれる理由

学術・研究開発機関  
の事業所数(政令市)  
**第1位**

横浜市内には多くの企業本社や研究開発拠点が立地。加えて、職住近接する生活環境の利便性や交通アクセスの良さも魅力です。  
※1「令和3年経済センサス活動調査」(総務省統計局)

### 「横浜」街の魅力TOP3

- 1位 魅力的な働く場や企業がある**
- 2位 文化・娯楽施設が充実している** (映画館・劇場・美術館・博物館など)
- 3位 ショッピングモールやデパートなどの大規模商業施設がある**

### 身近な自然環境で子育てしやすい

身近な公園数  
(2580万所)※2、※3  
**全国第1位**

※2 横浜市調べ。  
※3 市民の身近にあり、日常的に利用される公園  
(住区基幹公園)

子どもの自主性や冒險心  
を育む「ブレイブパーク」

身近な公園も  
大規模パークも  
充実

動物園数全国  
市区町村※4  
**第1位**

※4 文化庁登録博物館  
一覧より

よこはま動物園ズーラシア

豊かな自然で  
体験型の子育て  
が叶う



「街」のスペシャリストに聞く

## 今 横浜で 住み続けたい注目の街



福岡 由美

YUMI FUKUOKA

#住宅ローンアドバイザー

#FP技能士

北は北海道から南は沖縄まで全国各地域の「住まい・まちづくり・行政の取り組み」を取り組み、住宅情報サイトへ寄稿。取材歴25年。「まちの情報は歩いて集める!」を信条としており取材の際は1日15km以上歩くこと。



SUUMO 住み続けたい街  
ランキング2024首都圏版

みなとみらい **第1位**

馬車道 **第2位**

首都圏1都4県を対象としたSUUMO「住み続けたい街ランキング2024」で、1位に輝いたのは「みなとみらい」、2位は「馬車道」——横浜都心の2駅が上位を独占する結果となりました。また、2駅を合わせると「街の魅力40項目」のうち13項目で1位を獲得しており、圧倒的な支持率の高さが分かります。エリアにはどのような魅力があるのでしょうか?

**懐かしさと新しさが融合、  
幅広い世代に愛され、親子で楽しめる施設も充実**

注目の街  
**1**

### みなとみらい・馬車道

この2つの街は交通手段の豊富さはもちろんのこと、新しい商業・文化施設の登場により常に最新トレンドを感じられる一方、歴史を大切にした街づくりで「旧き良き」と「新しき」が共存した幅広い魅力があると言えます。

また、全国区の知名度を誇ることから観光客も多く訪れ、世代間や異文化交流の機会が地域活性を促進。毎週のようにエリア内で開催されるイベント等を通じて地域コミュニティが円滑に育まれ、街への愛着が深まっていることが分かります。さらに毎年、横浜市が継続と打ち出す子育て支援策により、子育て世帯からの期待値もアップしています。

歴史と新スポット・旧住民と新住民・多様性を受け入れる寛容さと新しさにより「自由な暮らし」を感じられる点が、両エリアの居住満足度につながっているのでしょうか。



馬車道の街



みなとみらい

注目の街  
**2**

### 星川・天王町

いま新旧共存で注目を集めているのが保土ヶ谷区の中心に位置する星川・天王町エリア。相鉄本線「天王町」駅を出て旧東海道を進むと「ハマのアメ横」と呼ばれる「洪福寺松原商店街」があります。昭和レトロな食べ歩きグルメや赤札価格の激安商品が評判を呼び、若者世代の買い物客にも好評で、歩行者天国はいつも賑わいがあります。



星天qlay  
川辺公園



一方、相鉄本線「星川」~「天王町」駅間の高架下に新しく誕生した「星天qlay(ホシテンクレイ)」は、スーパー・ドラッグストア・カフェ・食堂・保育施設・コワーキングスペースなど多彩な生活機能が集まる“楽しく歩ける高架下施設”。周辺には親水ゾーンが設けられた川辺公園やプール、保土ヶ谷図書館等も揃っているため、子育てファミリーにもおすすめのエリアです。

# 横浜市の 子育て支援策 が、拡充中！

“子育てしやすいまち”横浜の子育て支援策がさらに進化しています。

2023年8月に小児医療費が無料になり、2024年4月から出産費用の助成がスタート。

妊娠期から学齢期まで切れ目のない子育て支援策は先進的な取り組みです。



The infographic illustrates the progression of family life stages: pregnancy, birth, childhood (including infancy, preschool, elementary school, and middle school), and adolescence. It highlights several new support measures:

- 妊娠**: 妊婦健診助成 +5万円 (Up to 50,000 yen)
- 出産**: 出産費用助成 +最大9万円 (Up to 90,000 yen)
- 乳幼児**: 紙おむつの持参なし! にもつ軽がる保育園 (Paper diaper-free! Lighter diaper care保育園)
- 夏休み期間中の昼食提供**: 夏休み期間中、全ての放課後児童預かり場所で配食サービスによるお弁当を提供(400円)。
- 中学校全員給食スタート**: 市立中学校で“全員給食”が、2026年4月からスタート予定。市の専任の栄養士がつくる献立で、子どもたちの成長を支えます。
- 無料おあずかりクーポン**: はじめてのおあずかり券の配付 24時間分の電子クーポン／対象児童1人 子サボdeあずかりおためし券の配付 8時間分の電子クーポン／対象児童1人
- スポーツの楽しさを学ぶ トップスポーツチームとの交流**: 横浜DeNAベイスターズや横浜F・マリノスなど横浜を本拠地とする、野球、サッカー、バスケットボール、アイスホッケーなどの7競技13のトップスポーツチームの選手たちが子どもたちへスポーツの楽しさを伝えています。

とっても簡単！とっても便利な！  
助成金や無料おあずかりクーポンの申請は、  
子育て応援アプリ「パマトコ」から！

申請可能な主な手続き

- 産後母子ケア(訪問型)  児童扶養手当
- 小児医療費助成  一時預かりの予約等
- 児童手当

他多数

暮らしの魅力を伝える  
「横浜移住サイト」

二次元コード▼



横浜の暮らしの魅力がギュッと詰まった  
「子育てしやすいまちブランドブック」

二次元コード▼



子育て相談や  
交流ができる充実した  
安心の子育て環境。

妊娠が分かり東京都練馬区から横浜市金沢区に引っ越しました。理由は義理の両親が住んでいたこと、無痛分娩で出産できる横浜市立大学附属病院が近かったからです。金沢区に引っ越して感じたのは子育て中のご家族が多いということ。スーパーへ行くときに子どもを抱いていると、地域の方から「可愛いわね」と話しかけられたり、保育園や幼稚園の先生に手を引かれてお散歩する子どもたちの姿をよく見ます。自宅のそばにある地域子育て支援拠点「とことこ」へ行けば同じ月齢のお子さんを持つママがいるので情報交換したりします。「とことこ」は妊娠の時期から利用していて産後もお世話になりました。スタッフの方が丁寧に教えてくださるので、とても助かっています。子育ての知識が増え、負担が軽くなると感じました。



## 親子で楽しく・気軽に利用できる居場所♪ 横浜市地区センタープレイルームがリニューアル！

横浜市内18区に81館ある地区センター(いわゆる公民館)のうち27館のプレイルームが、親子で「楽しみながら絵本と触れ合える空間」、「気軽に利用できる居場所」としてリニューアル。

横浜市ゆかりの絵本作家市原淳氏がプロデュースした、ヨコハマをイメージした明るくカラフルな空間に、図書館の司書おすすめの絵本120冊と楽しく学べる知育玩具がそろいました。予約不要・無料で気軽に楽しめるだけです。



緑が豊かで、  
都心へのアクセスも便利な  
環境が横浜市の魅力。

金沢区は緑や公園が多く、近所には「横浜市立金沢動物園」「横浜・八景島シーパラダイス」があり、「海の公園」では潮干狩りもできます。子どもが成長したら子どもが遊べるスペースや、安心して食事できるスペースがある「三井アウトレットパーク 横浜ベイサイド」へも行こうと思います。茅場町に勤務する夫はリモートワークと週2日出社の勤務形態ですが、京急本線を利用して約1時間で到着。都心へ便利にラクに通勤できるのも横浜市の魅力です。

